

二重基準と追放の物語

イスラエル・パレスチナ紛争は、歴史的な皮肉と現代の不正義によって特徴づけられる、深く根ざした闘争であり、暴力と追放のサイクルを永続させています。このエッセイでは、4つの主要なテーマを検討します：ナチスの迫害から逃れるユダヤ人移民に避難所を提供したパレスチナの歴史的役割と、その後の彼ら自身の追放、シオニスト準軍組織によるテロリズムの使用とその後のイスラエルによる使用、さらには他者をテロリストと呼ぶ行為、イスラエルの創設を可能にした人権規範が現在パレスチナ人に対して侵害されていること、そして1947年の国連分割計画の不公平さとイスラエルの違法な拡大。これらのテーマは、二重基準、道徳的矛盾、法的違反のパターンを明らかにし、パレスチナ人の権利を損ない、公正な解決の必要性を強調しています。

避難所としてのパレスチナ、今や追放

1930年代から1940年代にかけて、ナチス・ドイツはユダヤ人を追放し、1935年のニュルンベルク法で市民権を剥奪し、1938年のアンシュルス後に迫害をエスカレートさせました。フランクリン・D・ルーズベルトが主導した1938年7月のエビアン会議は、避難所の提供に失敗しました：32か国が参加しましたが、ドミニカ共和国とコスタリカのみが相当数の受け入れを提案（それぞれ10万人と200家族）し、米国と英国は受け入れ枠の増加を拒否しました。選択肢がほとんどない中、多くのユダヤ人が委任統治パレスチナに目を向け、そこで英國委任統治はバルフォア宣言（1917年）に基づいて移民を促進しました。1933年から1939年の間に12万人以上のユダヤ人が到着し、1947年までにユダヤ人の人口は33%（190万人のうち60万人）に達しました。この文脈で、パレスチナは世界の多くの国がユダヤ人難民を拒否したときに彼らを受け入れ、救いました。

今日、この歴史は「どの国もパレスチナ人を受け入れたがらない」というシオニストの物語によって逆転しています。2023年10月7日のハマス攻撃とイスラエルのガザでの報復キャンペーン以降、国連の推定によると、190万人のパレスチナ人（210万人中）が追放されています。ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）は、これらの行動をジュネーブ条約に基づく戦争犯罪である強制移送と記録し、避難命令、安全地帯への攻撃、ガザの住宅の70%の破壊を伴っています。イスラエルの財務大臣ベザレル・スマトリッヂのような当局者は、ガザ住民の「自発的な移住」を提案し、彼らの追放が紛争を解決すると示唆しています。この物語は、ヨルダン、チリ、ドイツなどの国に600万人のパレスチナ人ディアスポラが存在することや、イスラエルの封鎖とガザの国境（例：ラファ検問所）の管理がパレスチナ人の出国を妨げている事実を無視しています。皮肉は明らかです：パレスチナで避難所を見つけた難民によって一部築かれたイスラエルは、今やパレスチナ人を強制的に追放し、誰も彼らを受け入れないと主張し、国際法（世界人権宣言第13条）に基づく彼らの故国に留まる権利を侵害しています。

テロリズムの継続性

シオニスト準軍組織イルグンとレヒは、英國委任統治時代に今日ではテロリズムと分類される戦術を用い、英國を追放し、ユダヤ人国家を確保することを目指しました。メナヘム・ベギンが率いるイルグンは、1946年にキング・デビッド・ホテルを爆破し、91人（アラブ人41人、英國人28人、ユダヤ人17人）を殺害しました。1948年のデイル・ヤシン虐殺では、イルグンとレヒが100人以上のパレスチナ人村民を殺害し、大規模な逃亡を引き起こし、ナクバを激化させました。その他の行為には、1947年に非番の英國軍曹クリフォード・マーティンとマーヴィン・ペイスの絞首刑、アラブ市場での爆破、1946年のローマの英國大使館爆破などの国際的な攻撃が含まれます。レヒは1944年にモイン卿を、1948年に国連調停者フォルケ・ベルナドットを暗殺し、後者はイスラエル国家の関与の可能性があります。これらの行為一民間人を標的にし、恐怖を植え付け、政治的目標を追求する一は、現代のテロリズムの定義（国連総会決議49/60、1994年）に適合します。MI5から1万ポンドの懸賞金がかけられていたベギンは、後にイスラエルの首相（1977-1983年）となり、今日ベンヤミン・ネタニヤフが率いるリクード党を設立しました。

イスラエルはその後、この暴力に似た行為に従事し、自己防衛と枠組み付けられることが多いが、テロリズムや国際法違反として批判されています。2006年、イスラエルはベイルート・ラフィク・ハリリ国際空港を爆撃し、民間インフラを標的にし、数千人を立ち往生させ、HRWから軍事的必要性の欠如として非難されました。1973年、イスラエルはリビア・アラブ航空114便を撃墜し、113人中108人を殺害し、国際民間航空機関（ICAO）が違法と判断しました。イスラエルは2001-2002年にガザのヤセル・アラファト国際空港を破壊し、2007年の封鎖下でのパレスチナ人の移動制限を象徴しています。しかし、イスラエルはハマスの指導者をテロリストと呼び、暗殺の標的にしています—例：2024年7月にテヘランでイスマイル・ハニヤ、2024年10月にラファでヤヒヤ・シンワール自身の歴史を無視しています。米国とEUによってテロ組織に指定されているハマスは、イスラエル民間人を攻撃していますが、ガザでの政治的役割や2017年の憲章などの修辞の変化は見過ごされ、ベギンが得た正当性が否定されています。この二重基準—シオニストやイスラエルの暴力を許し、パレスチナの抵抗を非難する一は、紛争のサイクルを永続させます。

人権：イスラエルを可能にし、パレスチナ人を侵害する

委任統治時代に英國を制限した人権規範はイスラエルの創設を可能にしましたが、同じ規範が今、イスラエルによってパレスチナ人に対して侵害されています。英國委任統治は「パレスチナのすべての住民の市民的および宗教的権利を保護する」ことを英國に課し、初期の人権原則を反映していました。イルグンとレヒの反乱に直面した英國の対応は抑制的でした：1946年のシャーク作戦は逮捕と夜間外出禁止令を伴い、捕らえられた戦闘員はエリトリア、ケニア、キプロスのキャンプに追放され、大規模な破壊は回避されました。第二次世界大戦後の疲弊、国際的な圧力（特にホロコースト後の米国から）、そして新興の人権規範は、過剰な武力の使用を制限しました。ガザでのイスラエルのようなより残酷な対応は、シオニスト運動を粉碎し、1948年のイスラエル設立を阻止したかもしれません。

今日、イスラエルはパレスチナ人に対する扱いでこれらの規範を侵害しています。2023年10月以来、イスラエルのガザでのキャンペーンは190万人を追放し、43,000人以上を殺害し、住宅

の70%を破壊し、HRWが戦争犯罪である強制移送と呼ぶ行為です。2007年の封鎖は、ジュネーブ条約第四条約第33条で禁止されている集団的懲罰を構成し、必需品へのアクセスを制限しています。第三国での標的殺人、例えばiranでのハニヤの殺害は、主権を侵害し、国際人権法の下での超法規的殺人に関する懸念を引き起こします。皮肉は深いです：1940年代にユダヤ人人口を保護した規範は今や無視され、イスラエルの行動はパレスチナ人の生命、移動、自己決定の権利を損なっています。

不公平な分割、違法な拡大

1947年の国連分割計画（決議181）は本質的に不公平で、委任統治パレスチナの56%（14,100平方キロメートル）を、人口の33%（60万人）で土地の7%しか所有していないユダヤ人国家に割り当て、アラブ人の大多数（67%、130万人）に43%（11,500平方キロメートル）を割り当てました。エルサレムは国際都市となる予定でした。ユダヤ人指導部は国家設立への一步としてこの計画を受け入れ、アラブ指導部は自己決定に反すると主張して拒否しました。続く1947-1948年の内戦と1948年のアラブ・イスラエル戦争で、イスラエルはパレスチナの78%（20,770平方キロメートル）に拡大し、75万人のパレスチナ人を追放（ナクバ）し、デイル・ヤシンなどの虐殺がその脱出を煽りました。

この56%はイスラエルにとって十分ではなく、占領、定住、併合を通じて違法に拡大してきました。1967年の六日間戦争で、イスラエルは西岸、ガザ、東エルサレム、ゴラン高原を占領しました。2024年の国際司法裁判所（ICJ）の勧告的意見は、70万人以上の西岸と東エルサレムの入植者を通じたパレスチナ人の自己決定の侵害を理由に、この占領を違法と宣言しています（ジュネーブ条約第四条約第49条に基づく違法）。パレスチナ人は、シェイク・ジャラなどの定期的な立ち退きに直面し、入植者に道を譲っています。イスラエルの1980年の東エルサレムの「不可分の首都」としての併合は、2024年の国連決議A/RES/ES-10/24で再確認されたように違法であり、定住と分離壁も非難されています。これらの行動はイスラエルの支配を確立し、「不可逆的な効果」を生み出し、併合に相当し、パレスチナ人をさらに追放し、分割計画の公正さの原則に矛盾しています。

結論

イスラエル・パレスチナ紛争は、歴史的な皮肉と現代の不正義によって特徴づけられ、深刻な二重基準を明らかにしています。パレスチナは世界がユダヤ人移民を拒否したときに避難所を提供しましたが、今、イスラエルはパレスチナ人を追放し、誰も彼らを受け入れないと主張し、彼らの苦境における自身の役割を無視しています。シオニスト準軍組織は国家を築くためにテロリズムを使用し、イスラエルはその後、空港爆撃や旅客機撃墜などの同様の行為に従事し、ハマスをテロリストと呼ぶ一方で、ベギンのテロリストの過去を無視しています。イスラエルの創設を可能にした人権規範は、ガザの強制移送や封鎖に見られるように、パレスチナ人に対して侵害されています。1947年の不公平な分割と、その後のイスラエルの定住と併合による違法な拡大は、国際法とパレスチナ人の権利を侵害する追放のパターンを続けています。これらの矛盾は、責任とパレスチナの自己決定を尊重する解決の緊急の必要性を強調し、この紛争の中心にある歴史的苦情と現代の不正義に対処します。